

#### 4. 確かな読みの力を支えるための学習活動の工夫

##### (1) 段落構成をとらえる学習の実施

CRTの結果分析から、本校児童は、説明文の形式面を理解する力が弱いことがわかった。これは、今まで内容面の理解に偏った指導を行ってきたためと思われる。その反省を生かし、取り組み始めたのが、「リライト教材」を用いた学習である。

##### ア 「リライト教材」とは何か。

- 説明的文章を簡潔に書き直した文章。
- 「文章構成が整っていること」「キーワードが明確であること」の2つの条件を満たした文章。
- 児童が読み、書く文章の構成のお手本となる短い教材文。

##### イ リライト教材使用の目的

- 基本的な文章構成(※1)をとらえる力を身につけさせるため。
- キーワード(※2)のとらえる力を身につけさせるため。

※1 「基本的な文章構成」とは、

「はじめ」(文章の記述の対象を紹介する部分)

「なか」(いくつかの事実を記述する部分。)

「まとめ」(事実に対する考察を述べる部分)

「むすび」(意見・主張を述べる部分)

※2 「キーワード」とは、

1つの意味段落において、話題の中心となる語句のこと。

##### ウ 本校におけるリライト教材を用いた学習の位置づけ

- ・ 説明文教材が位置づけられている単元の学習の初めにリライト教材を用いた授業を行う。
- ・ 年度当初(今年度は5月)に「リライト教材を用いた学習強化週間」を設け、2年生以上の学年でチャレンジタイム(習熟の時間)を使って集中的に段落構成等をとらえるスキルを身につける。
- ・ チャレンジタイムを使ってリライト教材をドリル的に扱った学習を行う。

##### エ リライト教材を用いた授業の実際

##### 第5学年国語科学習指導案(略案)

日時 平成20年5月8日(木) 5校時  
 児童 男子4名 女子13名 計17名  
 授業者 馬場 直幸

1 教材名 リライト教材「(雪の利用)」

2 本時の指導

(1) 目標

段落ごとのキーワードを抽出し、文章構成をとらえることができる。

(2) 展開

過程	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点(※) 評価
導入 5分	1 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">文章を読んでキーワードを抜き出し、文章構成をとらえましょう。</div>		
	2 課題解決の見通しを持つ。 ○「キーワード」とは何ですか? ○「文章構成」とは何ですか? ○文章構成にはどんなものがありましたか?	・段落に書かれてあること の中心となる言葉・  ・文の組み立て。  ・「はじめ」「なか」「まとめ」「むすび」	※既習事項を振り返り、発表させることによって、用語とその意味の定着を図るとともに、本時の課題解決に向けての見通しを持たせる。

<p>展開</p>	<p>3 文章を読む。  (1)教師の範読を聞く。  (2)追い読みをする。  (3)一人読みをする。  (4)一斉読みをする。</p> <p>4 難語句の意味を調べる。  ○意味の分からない言葉はありませんか？</p> <p>5 段落ごとのキーワードを読み取る。  ○1段落目には、これからこの文章を通して、何について説明すると書いてありますか？  ○2段落目から4段落目までのキーワードを見つけて、書きましょう。【書く活動①】</p> <p>○5段落目で筆者が一番伝えたいことは何ですか？</p> <p>6 文章構成を理解する。  ○表に文章構成を書き込みましょう。【書く活動②】</p> <p>○「はじめ」「なか」「まとめ」「むすび」には、それぞれどんな役割がありますか？</p>	<p>・積極的、貯蔵、むろ、谷間、必要、ダム、解消、有効、可能性、努力、協力、変化</p> <p>・「雪の積極的な利用」  (第1段落のキーワード)</p> <p>・「大雪むろ作戦」  (第2段落のキーワード)  ・「雪ダム作戦」  (第3段落のキーワード)  ・「可能性」  (第4段落のキーワード)</p> <p>・「大きな変化」  (第5段落のキーワード)</p> <p>・「はじめ」①  「なか1」②  「なか2」③  「まとめ」④  「むすび」⑤</p> <p>・「はじめ」…これから書く内容の紹介。  ・「なか」…事実や説明。  ・「まとめ」…「なか」で書かれたことの共通点。  ・「むすび」…筆者の考え。</p>	<p>※キーワードを見つけながら教師の範読を聞くように指示する。  ※すらすら読むことができるようになることを目標に音読をさせる。</p> <p>※グループごとに分担しながら左記の言葉の意味を調べる。</p> <p>※第2・3段落は「なか」の部分にあたり、具体的な説明が書いてある。よって、この部分は内容についても詳しく読み取るようにしたい。  ※第4段落は主語と述語に着目させ、段落の中の全ての言葉がかかっている「可能性」がキーワードであることをおさえさせる。</p> <p>主語と述語、段落相互の関係などを手がかりとしながら段落ごとのキーワードを正しく抜き出すことができたか。  (ワークシート、発表)</p> <p>※筆者の考えと事実を区別して読むように意識させる。</p> <p>※既習事項や抜き出したキーワードを活用しながら文章構成をとらえるようにさせる。</p> <p>抜き出したキーワードをもとにしながらか文章構成を正しく書くことができたか。  (ワークシート、発表)</p> <p>※「はじめ」「なか」などの段落を表す言葉と、その意味について振り返ることによって定着を図りたい。</p>
<p>終末 5分</p>	<p>6 学習のまとめをする。  ○今日は、キーワードを見つけるためにどんなことに気をつけて読みましたか？</p> <p>7 まとめ音読をする。</p>	<p>・主語と述語  ・段落の役割</p>	<p>※本時の学習で用いた形式面における読み取りの技術を振り返ることによって、自己の学びを確かめ、今後の学習に生かせるようにする。</p>

(3) 板書計画

文章構成 はじめ	① 文章の内容の紹介	① 雪の積極的な利用	キーワード ② 大雪むろ計画 ③ 雪ダム計画 ④ 可能性 ⑤ 大きな変化	第二二回説明文読解トレーニング 文章を読んでキーワードを抜き出し、 文章構成をとらえましょう。
なか1	② 事実や説明			
なか2	③			
まとめ	④ 「なか」の共通点			
むすび	⑤ 筆者の考え			

(4) 使用リライト教材 (ワークシート)

類似文評価の問題例については、著作権の関係でそのまま公開できないものもありますので、当日配布の研究紀要でご確認ください。

オ 学年別リライト教材学習プリント

(2) 読書活動の推進の実際

ア 読書ボランティアによる読み聞かせ会の実施

本校では、基本的に毎週水曜日の朝読書の時間に、地域の読書ボランティア団体「本だすかい」とPTAのボランティアによる読み聞かせ会を全学年で行っている。本の選定は、児童の発達段階を考慮しながらボランティアの方々をお願いしている。読み聞かせ会の最後には、児童が感じたことや考えたことを感想発表という形で述べる時間を設けている。

イ 図書委員による読み聞かせ会の実施

図書委員会では、年間活動計画の中に読み聞かせ会を位置づけ、活動を行っている。朝読書には主に低学年の教室で1・2年生を対象に、昼休み時には図書室を会場として全校児童を対象に行ってきた。昼休み時間に行う全校を対象とした読み聞かせ会では、図書室に入りきれないほどの児童が集まり、真剣なまなざしで図書委員による朗読を聞き入っていた。

ウ 必読図書を指定しての読書活動の工夫

本校児童の文種別読書状況は、絵本や物語などの文学的文章を好んで読むことに偏りが見られる。児童にもっと読書の楽しみを知ってもらいたい、そして、もっとたくさんの知識を得てもらいたいという願いから、本校では、必読図書を選定し、読書指導に生かしてしている。必読図書は各学級担任が5～10冊程度選定する。なお、必読図書は全て学校図書室にある本の中から選んでいる。

参考 平成21年度学年別必読図書

	1年生必読図書
①	『ねずみくん』シリーズのほん
②	『ぐりとぐら』シリーズのほん
③	『ふゆめがっしょうだん』
④	『これは のみの びこ』
⑤	『おだんごばん』

	2年生必読図書
①	『めっきら もっきら どおんどん』
②	『王さまと九人のきょうだい』
③	『よかったね ネットくん』
④	『かあさんになった あーちゃん』
⑤	『おさるはおさる』



## **(4) 語彙力向上の実際**

### **ア 3年生以上の児童における国語辞典の活用**

本校では、3年生以上の児童全員に一人一冊国語辞典を持たせている。教科を問わず、難語句を教師が指定して意味を調べさせたり、児童が自主的に意味のわからない言葉の意味を調べたりしている。調べた後は、国語辞典の中の調べた言葉にラインマーカーで印をつけたり、付箋紙をはったりして学習の積み重ねが実感できるような手立てをとっている。

### **イ 低学年の児童における国語辞典の活用**

学習指導要領では、国語辞典を使用する学習は3学年からとなっている。しかし、児童がもっと小さい時から、自然な形で国語辞典と出会い、慣れ親しませていくことによって、自ら国語辞典の仕組みに気づいたり、語彙力が広がったりするのではないかと考えた。よって本校では、低学年の児童にも国語辞典に親しませる機会を設けるという実践を行ってきた。具体的には、1・2年生の各教室に人数分の国語辞典を設置し、朝読書や国語の時間等を使って読書させている。児童からは「いろいろな言葉の意味が分かって楽しい。」「言葉の他にも、絵や写真がたくさん載っていておもしろい。」という声が上がっている。